

早期コシヒカリの移植期の早期限界							
<p>[要約] 平年的な気象条件下での早期コシヒカリの移植期の早期限界は、作柄の安定性を考慮した場合、平均気温が13℃となる時期で、県南部の平坦地では4月2半旬、県北部の平坦地では4月2～3半旬である。なお、この場合の成熟期は県南部では8月2～3半旬、県北部では8月3～4半旬である。</p>							
農産研究所・栽培部・作物栽培研究室					連絡先	092-924-2937	
部会名	農産	専門	栽培	対象	稲類	分類	普及

[背景・ねらい]

早期栽培では、出荷時期を早めることにより早場米として有利に販売することができる。移植期や苗の種類を変えることにより収穫期の早進化を図ることができるが、早進化の限界や収量、品質に対する影響を地域別に検討する必要がある。そこで、作柄安定のために早進化の程度が収量、品質に及ぼす影響について明らかにし、福岡県内の移植期の早期限界メッシュ図を作成する。

[成果の内容・特徴]

- ① 県北部（農産、豊前）において移植期を4月5半旬から4月2半旬に早めると、出穂期は4日程度早くなり、収穫期は4～5日早進化される。検査等級は同程度だが収量は単位面積当たり穎花数や千粒重が減少するため4%程度少なくなる（表1）。
- ② 県南部（筑後）において移植期を4月2半旬から3月6半旬に早めると2日程度早進化される。検査等級は同程度だが収量は穎花数減少のため4%程度少なくなる（表1）。
- ③ 4月2半旬移植の場合、育苗日数を14日程度延長することより0.5～1.2葉苗齢の進んだ苗が得られる。この苗を移植すると収量、検査等級への影響もなく2日程度早進化される（データ略）。
- ④ 平年的な気象条件下での移植期別及び地域別の成熟期を明らかにした（図1、図2）。
- ⑤ 以上から作柄の安定性を考慮した場合、移植期の早期限界は県南部の平坦地では4月2半旬、県北部の平坦地では4月2～3半旬で、これは平均気温が13℃に達する時期である。

[成果の活用面・留意点]

- ① 水稻栽培技術指針に登載し、早期コシヒカリの早進化を図る場合の地域別移植期の策定に活用する。
- ② コシヒカリは気温の高低による生育ステージの変動が大きく、成熟期は年次により最高±5日程度の変動がみられるので、年次間の生育差に留意する。

[具体的データ]

表1 移植時期と生育、収量、検査等級

試験場所	移植時期	移植期の気温 ℃	苗齢 L	出穂期 月日	成熟期 月日	稈長 cm	倒伏程度	穂数 本/m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup> 当り 穎花数 ×100	千粒重 g	玄米重 kg/a	収量比	検査等級
農産	4. 7	13.0	2.2	7.15	8.16	78	0.8	446	310	20.7	46.2	96	2中
"	.24	15.0	2.1	.19	.21	79	0.8	433	314	21.6	48.0	100	2下
"	5. 8	18.0	2.0	.23	.26	82	2.1	428	303	22.2	47.7	99	2中
豊前	4. 5	13.0	2.2	7.14	8.17	86	0.3	399	306	20.7	51.9	96	2下
"	.22	13.9	2.5	.18	.21	85	1.7	435	332	20.8	54.1	100	2中
筑後	3.30	12.9	2.8	7. 5	8. 5	76	0.3	366	252	21.0	44.0	96	1下
"	4.10	14.4	3.4	. 7	. 7	78	0.3	420	288	20.9	45.6	100	2上

注) ①平2, 3, 4年の平均値。②移植期の気温は移植期から10日間の日平均気温の平均値。

③倒伏程度は無～甚を0～5で示した。④農産は筑紫野市、豊前は行橋市、筑後は大木町

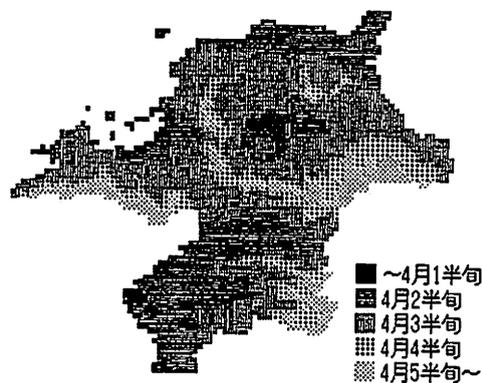
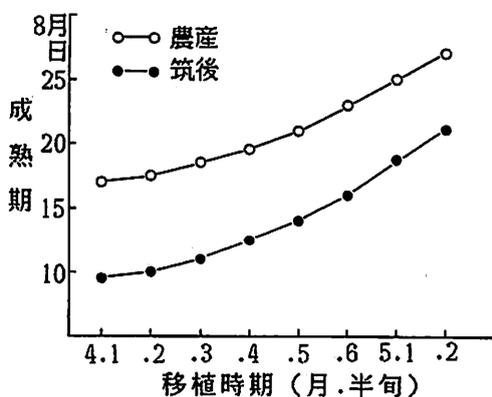


図1 移植期別の成熟期 図2 地域別移植期の早期限界(平均気温13℃到達日)

注) 図1、図2はノンパラメトリック法により出穂、成熟期を推定した(平年値、稚苗の場合)。

[その他]

研究課題名：早期栽培の早進化限界の解明

予算区分：経常

研究期間：平成4年度(平成2～4年)

研究担当者：田中浩平、松江勇次、福島裕助

発表論文等：平成2～4年度 農産研究所夏作試験成績概要書